

Canon

EOS *Kiss* Lite



日本語

J

使用説明書

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

EOS Kiss Liteは、たいへんコンパクトなAF一眼レフカメラですが、簡単な全自動撮影から高度な応用撮影まで、さまざまな撮影状況に最適対応する豊富な機能を備えています。

ご使用になる前に、カメラを手に取りながら、この使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。



撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、『取り扱い上のご注意』(4ページ)をお読みください。

この使用説明書は必要なときにいつでも取り出せる場所においてご活用ください。

ご使用になる前の注意

- 結婚式や海外旅行など、大切な撮影をする前には必ず試し撮りをして、カメラが正常に作動することを確認してからお出かけください。
- EOSはキヤノンEFレンズとの間で、ピントや露出を調整するために専用の電子マウントを採用しています。他社製のレンズをEOSに使用すると、カメラまたはレンズが正常に作動しないことがありますのでご注意ください。また、EOSと他社製品の組み合わせ使用で生じた事故や故障につきましては保証いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

本使用説明書上のお断り

- 本文中のは電子ダイヤルを示しています。
- モードダイヤルが以外になっていることを前提に操作方法を説明しています。各操作をする前に、モードダイヤルを撮影モードにしてください。
- (**)の**部は参照ページを示しています。
- 本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやダイヤル、マークなど、カメラに表示されている絵文字を使用しています。
- (A4) / (A6)はボタンから指を離しても、その状態がタイマーによりそれぞれ4秒間 / 6秒間保持されることを示しています。

目次

本使用説明書上のお断り	2
取り扱い上のご注意	4
各部の名称	6

1 撮影前の準備

11

電池を入れる	11
電池容量を確認する	12
レンズを取り付ける／取り外す	13
シャッターボタンとオートフォーカス	14
◎フィルムを入れる／取り出す	15
◎☑途中巻き戻し	16

2 カメラまかせの自動撮影

17

すべてが自動設定されシャッターボタンを押せば、誰でもカメラまかせで撮影できます。

3 撮影目的にあわせた応用撮影


27


シャッター速度や絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

資料

44

本文中のマークについて

 撮影に不都合が生じるおそれのある注意事項が書かれています。

 基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書かれています。

取り扱い上のご注意

手入れと保管について

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りのお客様相談窓口にご相談ください。また水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふき取ってください。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーン、フィルム室内などにゴミが付いているときは、市販のブローブラシで吹き飛ばすだけにしてください。カメラおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りのお客様相談窓口にご相談ください。
- シャッター幕は非常に薄い幕でできています。お手入れには必ずブローアーを使用し、あまり強く吹かないでください。強く吹くとシャッター幕の変形や破損の恐れがあります。またフィルムを出し入れする際にもシャッター幕に触れないようご注意ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐蝕の原因となることがあります。腐蝕が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを長期間使用しないときは、電池室から電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐蝕などの原因となるため避けてください。また同様にタンスの中なども避けてください。

- 長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りのお客様相談窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。




表示パネルについて

液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

電池について

- 電池をカメラに入れるときは、電池の接点の汚れや指紋などをよくふき取ってください。そのまま入れると接触不良や腐蝕の原因となることがあります。
- 電池の分解や充電、高温下での放置、および接点をショートさせたり火の中に投げ入れることは、危険ですので絶対にしないでください。
- リチウム電池は低温特性にも優れていますが、0℃以下ではやや電池の性能が低下します。寒冷地でご使用になるときは予備の電池を用意し、ポケットなどに入れて保温しながら交互に使用することをおすすめします。

電圧の低下とカメラの作動について

表示パネルの〈〉が点滅または無表示になっても、シャッターが切れれば適正な写真が撮影されます。ただし、電池の容量が低下してくると、自動巻き上げや自動巻き戻しができないことがあり、表示パネルに〈〉が点滅します。新品の電池に交換すると、フィルムの巻き上げは継続され、フィルムの巻き戻しは〈〉ボタンを押せば継続されます。

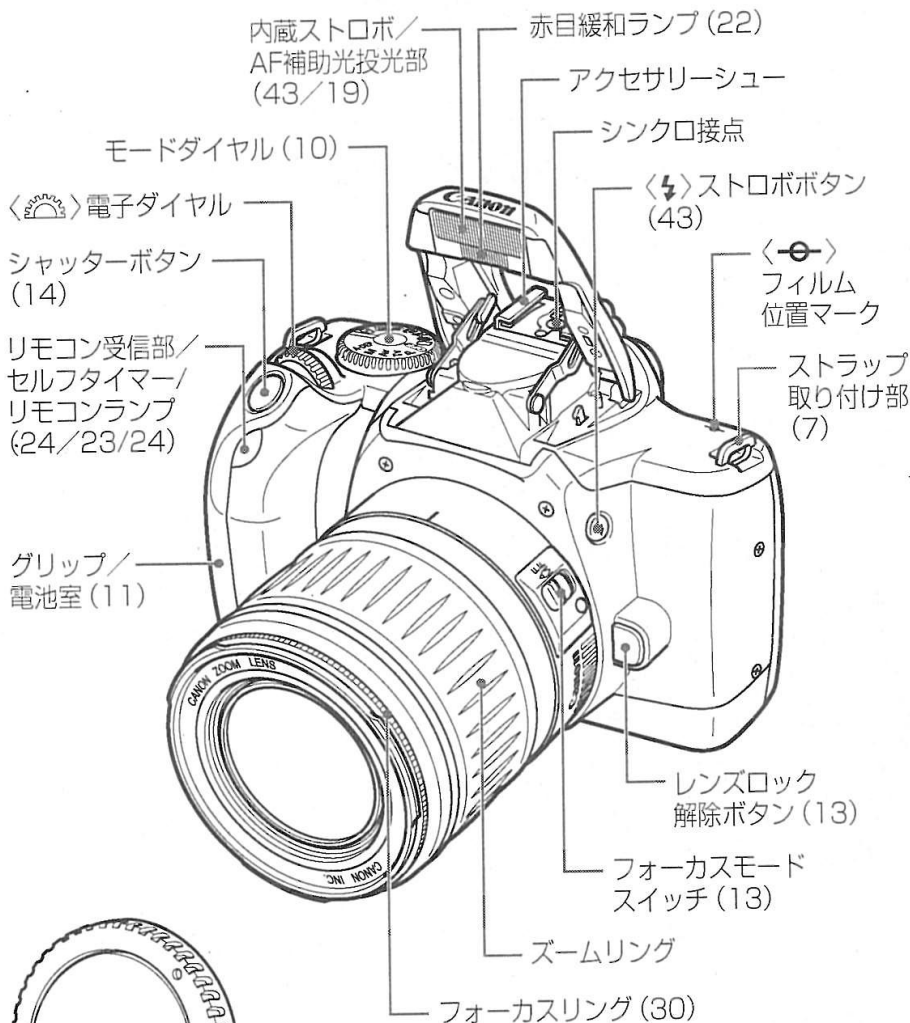
レンズの接点について

レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。



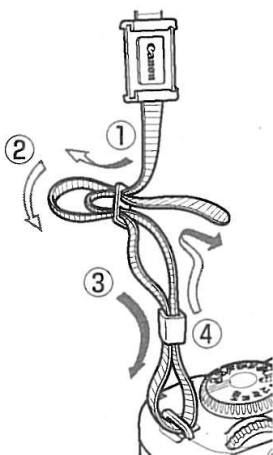
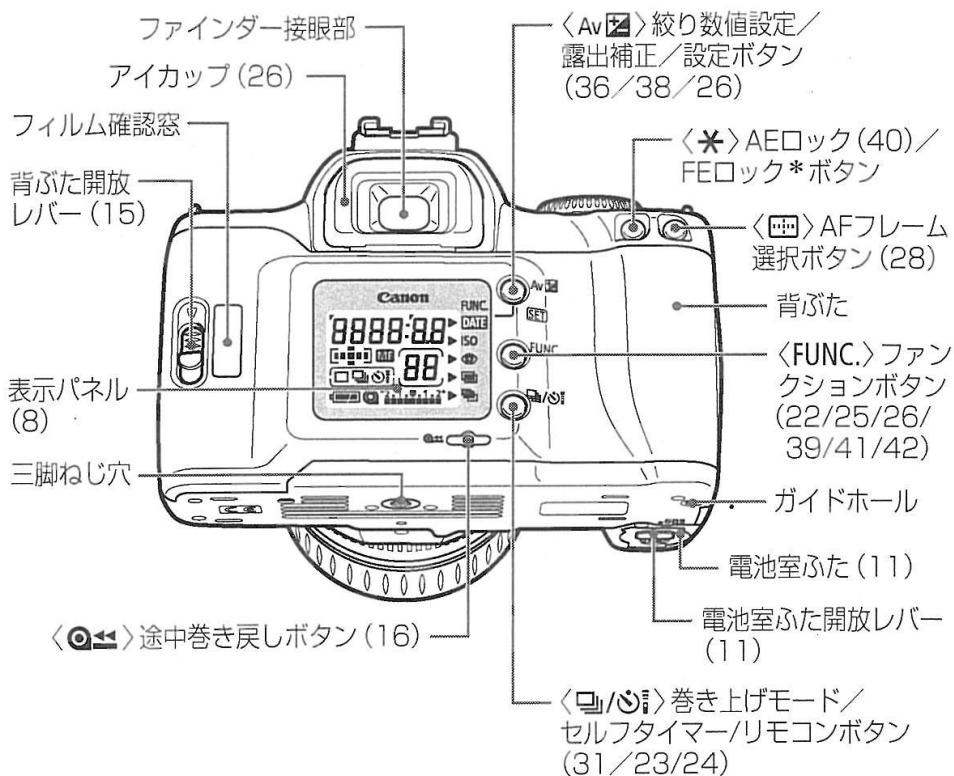
各部の名称

● (***)の**部は参照ページを示しています。



ボディキャップ (13)

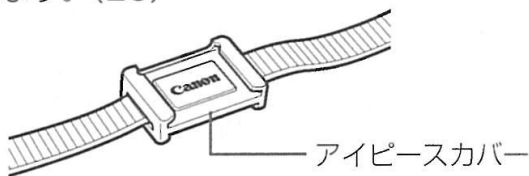
* スピードライトEXシリーズ使用時



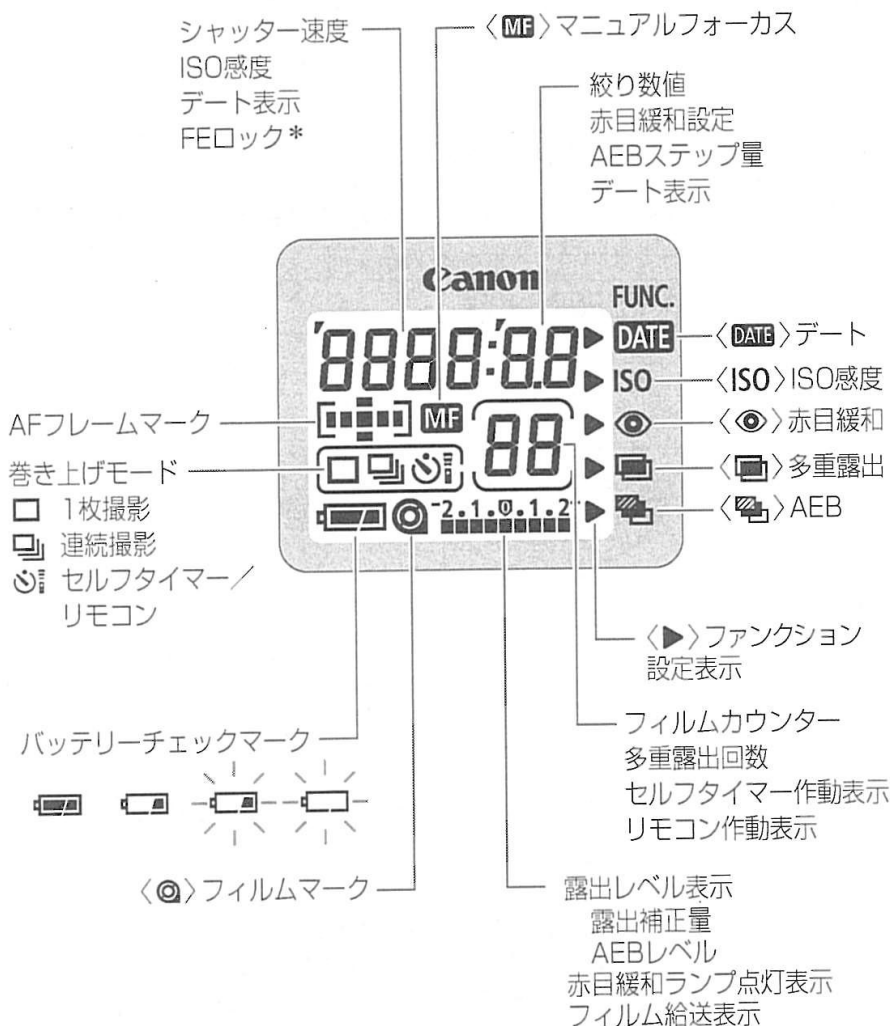
ストラップ(吊りひも)の取り付け方

ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている止め具の内側を通します。引っ張っても止め具の部分がゆるまないことを確認してください。

- ストラップにはアイピースカバーが付いています。(26)



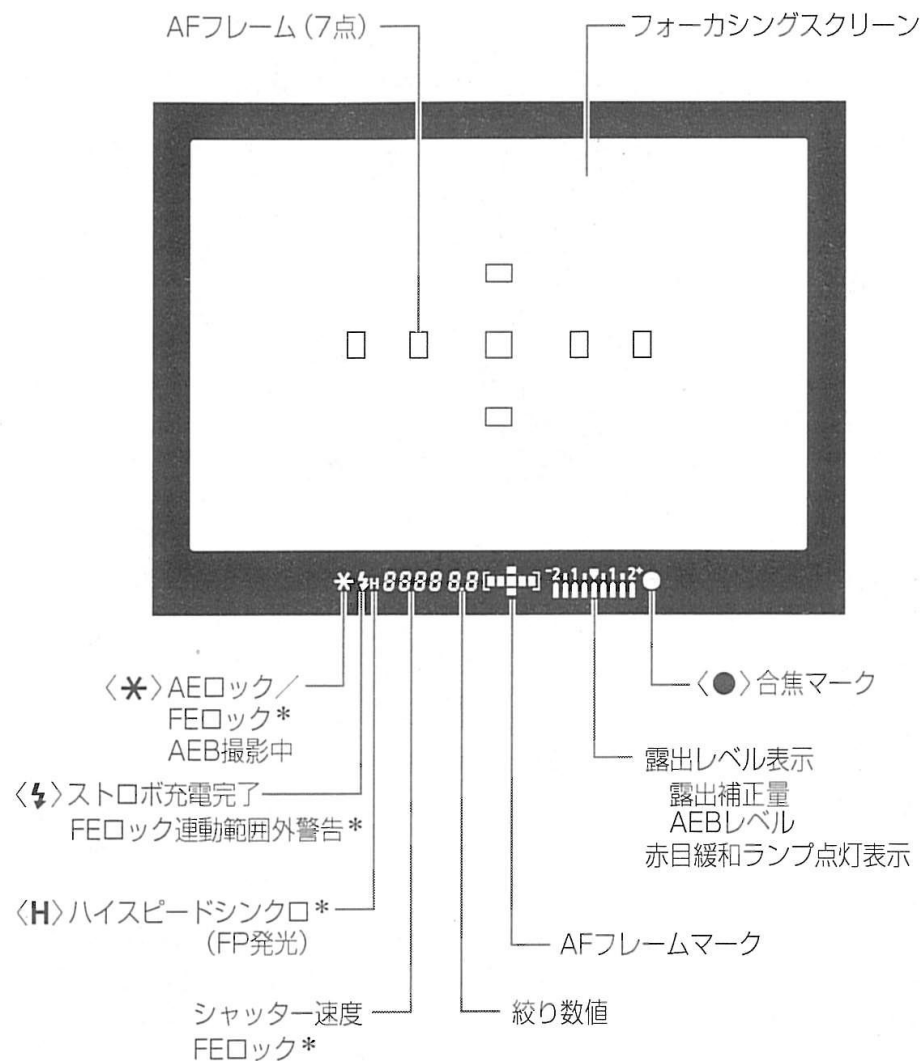
各部の名称 表示パネル



* スピードライトEXシリーズ使用時

● 表示は状況に応じた部分のみ表示されます。

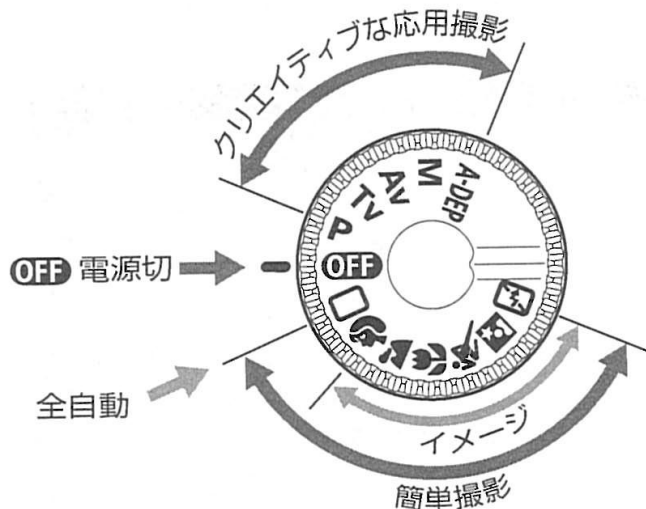
ファインダー内表示



各部の名称

モードダイヤル

モードダイヤルは2つの機能ゾーンに分けられています。



① 簡単撮影ゾーン

基本操作はシャッターボタンを押すだけです。

□：全自動(18)

カメラまかせの全自動撮影ができます。

イメージゾーン(20)

被写体別にカメラまかせの全自動撮影ができます。

👤：ポートレート

🏞️：風景

🌸：クローズアップ

🏃：スポーツ

🌃：夜景ポートレート

🚫：ストロボ発光禁止

② クリエイティブな応用撮影ゾーン

思いどおりのさまざまな撮影ができます。

P：プログラムAE(32)

Tv：シャッター優先AE(34)

Av：絞り優先AE(35)

M：マニュアル露出(36)

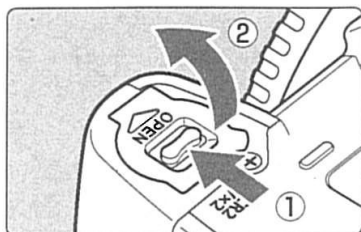
A-DEP：自動深度優先AE(37)

③ OFF：電源切

1 撮影前の準備

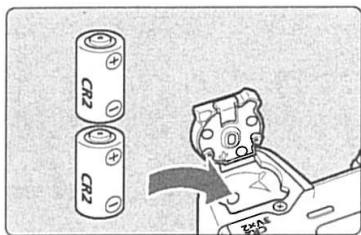
電池を入れる

電池はCR2リチウム電池を2本使用します。



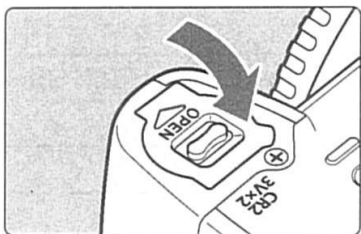
1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開けます。



2 電池を入れる

- 表示にしたがって、「+」「-」をまちがえないように電池を入れます。
- 古い電池と新しい電池を混ぜて使わないでください。



3 ふたを閉じる

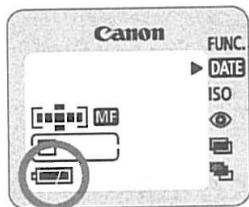
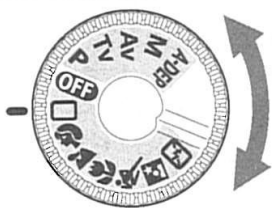
- 「カチッ」と音がするまでふたを押します。
- 日付／時刻を設定してください。
(26)



地域によっては電池の入手が困難なことがあります。海外旅行に出かけるときや、写真をたくさん撮るときは、予備の電池を用意してください。

電池容量を確認する

電池を交換したときや撮影の前などには、電池の容量を確認してください。



モードダイヤルを撮影モードにする

● 電源が入り表示パネルにバッテリーチェックマークが表示されます。

: 電池の容量は十分です。

: 電池の残量が少なくなっています。新しい電池を用意してください。

: もうすぐ電池切れになります。

: 新しい電池と交換してください。

撮影可能フィルム本数(24枚撮りフィルム)

[本]

温度	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影	全てストロボ撮影
常温(+20℃)	67	30	22
低温(-10℃)	44	20	15

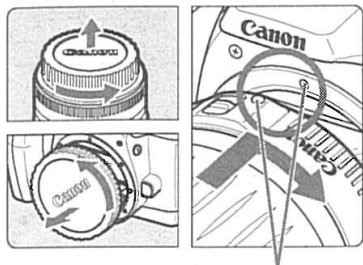
● 新品電池使用、当社試験基準による本数です。



- 表示パネルに何も表示されない場合は、電池が逆向きに入っていることが考えられます。正しい向きに入れ直してください。
- シャッターボタン半押し状態を長く続けたり、AFのみを行って撮影しないという操作を頻繁に行うと、撮影可能フィルム本数が少なくなります。
- カメラを使用しないときは、不用意な作動をさけるため、モードダイヤルを<OFF>にしてください。

レンズを取り付ける／取り外す

取り付け方



レンズ取り付け指標

1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

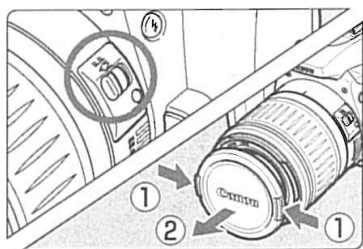
2 レンズを取り付ける

- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

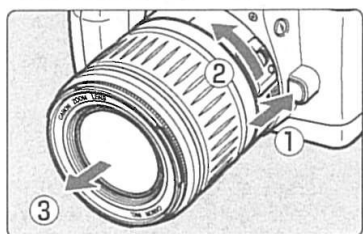
3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

- 〈MF〉になっていると、オートフォーカスできません。

4 レンズキャップを外す



取り外し方



レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

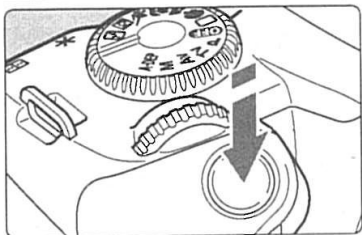
- 回転が止まるまで回してから、外してください。



- 外したダストキャップ、ボディキャップ、レンズキャップはなくさないように保管してください。
- 〈AF〉はAuto Focus(オートフォーカス)の略で自動ピント合わせ、〈MF〉はManual Focus(マニュアルフォーカス)の略で手動ピント合わせのことです。
- EF-Sレンズは取り付けられません。

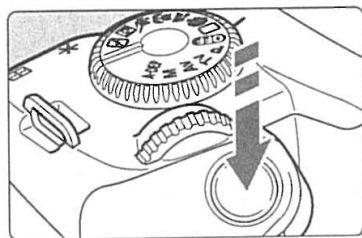
シャッターボタンとオートフォーカス ■

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで軽く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで押すことを「全押し」といいます。



半押し

- AF(オートフォーカス)によるピンント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。
- 露出値(シャッター速度と絞り数値)が、表示パネルとファインダー内に表示されます。(④)



全押し

- シャッターが切れて撮影が行われ、自動的にフィルムが巻き上げられます。

❗ エクステンダー(別売)を併用したときの開放絞り数値がF5.6を超えるレンズでは、AF撮影できません。

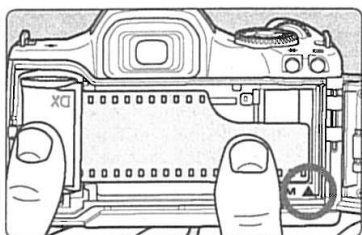
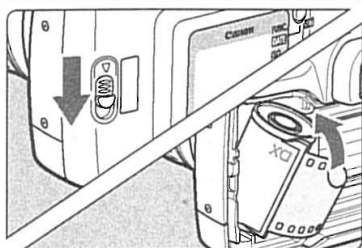
📄 シャッターが切れる瞬間にカメラが動くことを「手ブレ」といい、全体がぼけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために次の点に注意してください。

- カメラが動かないようにしっかり構えてください。
 - ・ カメラのグリップを右手で包むようにしっかりと握り、ひじを軽く体に付けます。
 - ・ 左手でレンズ部を下から支えるように持ちます。
 - ・ カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。
 - ・ 両足はそろえずに、片足を軽く踏み出して体を安定させます。
- シャッターボタンに指の腹をかけ、カメラ全体を握るような感じで、静かに押します。

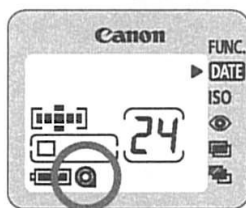
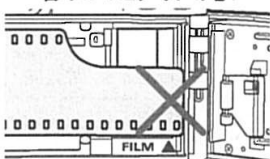
◎フィルムを入れる／取り出す

入れる

フィルムを入れると一度フィルムを全部巻き取り、撮影のたびに1コマずつ巻き戻していきます。フィルム感度はDXコードにより自動設定されます。フィルムカウンターには常に撮影できる枚数が表示されます。



誤った入れ方



1 モードダイヤルを<OFF>以外にする

2 背ぶたを開ける

- レバーを下げて背ぶたを開けます。

3 フィルムを少し斜めにして入れる

4 フィルムの先端を<▲>マークに合わせる


- パトローネ(フィルム容器)を押さえながらフィルムを引き出します。引き出し過ぎたときは、パトローネ内に少し巻き戻します。

5 背ぶたを閉じる

- 「パチン」というまで閉じます。
- ➡ 巻き取りが始まり、約10秒後にシャッターが切れるような音がして、表示パネルに<◎>と撮影できる枚数が表示されます。
- ➡ 巻き取り中は、表示パネルにISO感度が表示されます。

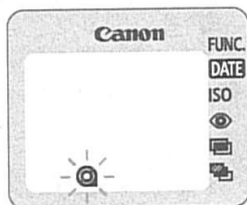
◎フィルムを入れる／取り出す

- シャッター幕は非常に高い精度で加工されています。絶対に手を触れないでください。またフィルムを入れる際に、誤って指やフィルムでシャッター幕を破損・変形させないように十分にご注意ください。
- 高温・高湿環境下で撮影するときは、フィルムはカメラに入れる直前に梱包から取り出してください。
- 赤外フィルムは使用できません。

 フィルムが正しく入っていないと、<◎>が点滅してシャッターが切れません。フィルムを正しく入れ直してください。

取り出す

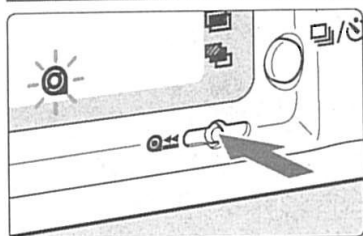
最後のコマを撮影すると自動的に巻き戻しが始まります。



巻き戻しが終わると、シャッターが切れるような音がしたあと、表示パネルに<◎>だけが点滅します。表示を確認して背ぶたを開け、フィルムを取り出します。

◎◀途中巻き戻し

フィルムを撮り終える前に取り出すときは次のようにします。



<◎◀>ボタンを押す

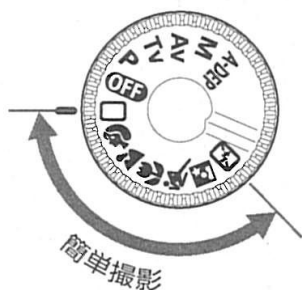
- ➔ 巻き戻しが始まります。
- <◎>の点滅を確認してから取り出します。

❗ 撮影の途中で巻き戻し操作をせずにフィルムを取り出したあと、続けて新しいフィルムを入れて、シャッターボタンを全押しすると、フィルムがパトローネに巻き取られてしまいます。一度背ぶたを閉じて、空撮りしてから新しいフィルムを入れてください。

カメラまかせの自動撮影

□全自動で撮る	18
内蔵ストロボによるAF補助光について.....	19
イメージにあわせて撮る	20
👤ポートレート / 🏞️風景 / 🌸クローズアップ / 🏃スポーツ / 🌃夜景ポートレート / 🚫ストロボ発光禁止	
👁️赤目緩和機能を使う.....	22
🕒セルフタイマー撮影.....	23
📶ワイヤレスリモコン撮影.....	24
📅DATE日付 / 時刻を入れて撮る	25
アイピースカバーを使う	26

この章では、モードダイヤルの簡単撮影ゾーンにある〈□〉〈👤〉〈🏞️〉〈🌸〉〈🏃〉〈🌃〉〈🚫〉を使って簡単に撮影する方法を説明しています。このゾーンでは、シャッターボタンを押せば誰でもカメラまかせで撮影できます。また、誤操作による失敗を防ぐため、〈📷〉〈📷〉〈*〉〈📷〉〈📷〉〈ISO〉の操作はできないようにしてありますので、安心して撮影してください。



モードダイヤルを〈□〉〈👤〉〈🏞️〉
〈🌸〉〈🏃〉〈🌃〉〈🚫〉のいずれか
にする

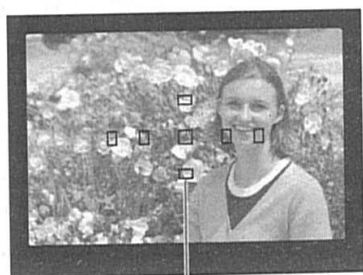
- 撮影の手順は『□全自動で撮る』(18)と同じです。

□全自動で撮る

シャッターボタン以外の操作をする必要がなく、どんな被写体でも安心して気軽に撮ることができます。7つのAFフレームで被写体をとらえますので、誰でも簡単にきれいな写真が写せます。



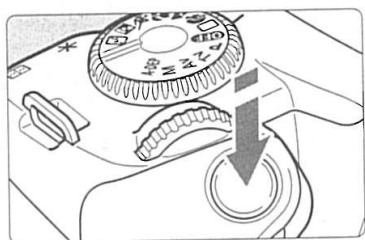
1 モードダイヤルを<□>にする



AFフレームム

2 被写体にAFフレームを合わせる

- カメラが主被写体と判断したAFフレームでピントを合わせます。
- 7つのAFフレームから外れている被写体にピントを合わせるときは、『フォーカスロック撮影』(29)を参照してください。



3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- ➡ 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。
- ➡ ピントが合うと、ファインダー内にピントを合わせたAFフレームマークと、合焦マーク<●>が点灯します。

シャッター速度

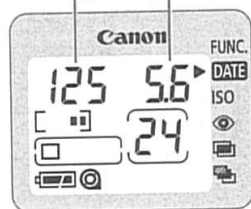
絞り数値

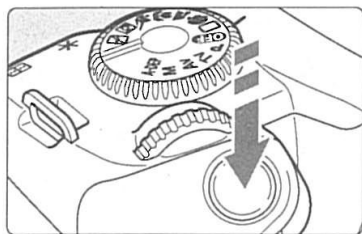
AFフレームマーク



4 表示を確認する

- ➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。





5 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。



- レンズのズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとでズームリングを動かすと、ピントがズレることがあります。
- 誤って内蔵ストロボが上がるのを阻害したときは、表示パネルの<□>が点滅して警告します。そのときは、シャッターボタンを半押しすると正常に戻ります。



- AFでピントが合うと同時に、ピントと露出はロックされます。
- 合焦マーク<●>が点滅するときは、撮影できません。(30)
- 7つのAFフレームでとらえた被写体のうち、原則としてもっとも近距離にある被写体に、自動的にピントが合います。
- 複数のAFフレームマークが同時に点灯することがあります。そのときは、点灯したすべての位置にピントが合っています。
- 簡単撮影ゾーン(<山>×<閃>×<四>)を除く)では、暗いときや日中逆光時に内蔵ストロボが自動的に上がって発光します。収納するときは手で押し下げます。

内蔵ストロボによるAF補助光について

暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。これはAFでピントを合わせやすくするためです。



- <山>×<閃>×<四>では、AF補助光は光りません。
- 内蔵ストロボによるAF補助光によってピントが合う範囲は約4mまでです。
- 応用撮影ゾーンでは、<閃>ボタンを押してストロボを上げておくと、必要に応じてAF補助光が光ります。

イメージにあわせて撮る

撮影目的に応じたモードを選ぶだけで、効果的な写真を簡単に撮影できます。



ポートレート



背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮るようなときに使用します。

- シャッターボタンを押し続けると連続撮影になります。
- 望遠レンズを使用して、人物の上半身がファインダーいっぱいになるくらいにすると、背景を効果的にぼかすことができます。また被写体をできるだけ背景から離すとより効果的です。



風景



広がりのある風景や夜景などを撮るようなときに使用します。

- 広角レンズを使用すると、近くから遠くまでの奥行きに加えて、横の広がりも表現できます。



クローズアップ



草花や昆虫などを大きく撮るようなときに使用します。

- できるだけ使用レンズの最短撮影距離まで被写体に近づいて撮影すると効果的です。
- ズームレンズの場合は、望遠側にすると被写体をさらに大きく撮影できます。



シャッター速度が点滅したときは、シャッター速度が遅くなり手ブレが起きやすくなります。カメラの構え方とシャッターボタンの押し方に十分注意するか、三脚を使用して撮影することをおすすめします(三脚を使用してもシャッター速度の点滅は消えません)。



スポーツ



動きの速い被写体の瞬間をとらえた写真を撮るようなときに使用します。


- はじめに中央のAFフレームで被写体をとらえます。その後、7つのAFフレームのいずれかで被写体をとらえていれば、ピントを合わせ続けます。
- シャッターボタンを押し続けると、被写体にピントを合わせ続け、連続撮影になります。
- 望遠レンズ、ISO400以上の高感度フィルムの使用をおすすめします。



夜景ポートレート



夕暮れや夜景を背景にした人物を撮影するときに使用します。人物にはストロボ光があたり、背景は遅いシャッター速度でそれぞれをきれいに撮影できます。

- 人物が入らない夜景のみを撮影するときは、で撮影してください。
- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写真を撮られる人に声をかけてください。




ストロボ発光禁止



美術館など、ストロボ撮影が禁止されている場所や、自然光を生かした雰囲気のある写真を撮影するときに使用します。

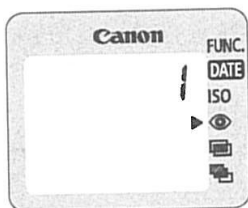
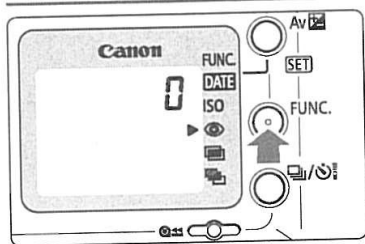
- 内蔵ストロボ、EOS専用外部ストロボ使用時ともに発光しません。



では、手ブレを防ぐために必ず三脚を使用してください。

◎赤目緩和機能を使う(内蔵ストロボ使用時)

夜や暗い室内などで人物をストロボ撮影したときに目が赤く写ることがあります。これを「赤目現象」といいます。赤目緩和機能を使うと、ストロボ撮影するときに赤目緩和ランプが点灯して、赤目現象を出にくくします。赤目緩和機能は、<📷><👤><📷>以外のすべての撮影モードで機能します。



1 <▶>マークを<◎>に合わせる

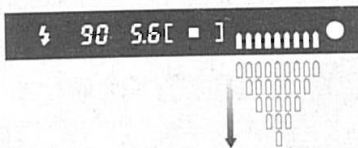
- 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押します。(📷6)

2 表示を「!」にする

- <📷>を回して設定します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。
- 解除するときは、表示を「📷」にします。



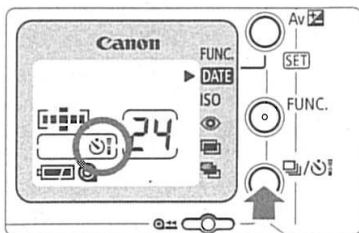
- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルに赤目緩和ランプ点灯表示が行われます。
- 写される人がランプを注視していないと効果がありませんので、写される人がランプを見るように声をかけてください。
- 効果的な赤目緩和撮影のためには、約1.5秒間の赤目緩和ランプ点灯表示が消えてからシャッターボタンを全押ししてください。
- 赤目緩和ランプ点灯中でも、シャッターボタンを全押しすると撮影できます。
- 赤目緩和効果の度合いには個人差があります。
- 室内を明るくしたり、写したい人に近づくとより効果的です。



赤目緩和ランプ
点灯表示

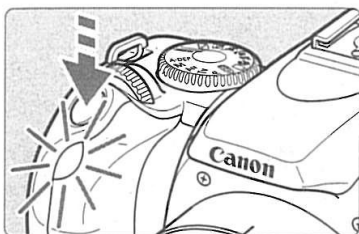
☺セルフタイマー撮影

簡単撮影ゾーンでも応用撮影ゾーンでも使えます。セルフタイマー撮影をするときは三脚をお使いください。



1 <☺/>ボタンを押す

- 表示パネルを見ながら、<☺/>ボタンを押して<☺/>を選びます。



2 撮影する

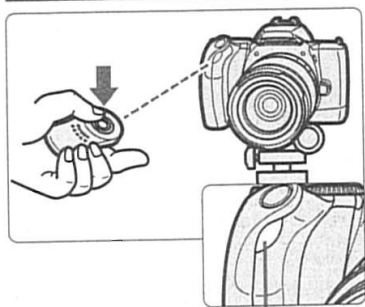
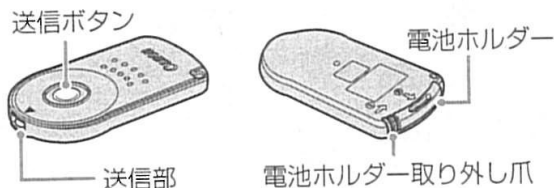
- 撮影の手順は『全自動で撮る』(18)と同じです。
- ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを全押しします。
- ➔ 約10秒後に撮影されます。
最初の8秒間：セルフタイマーランプ遅い点滅
最後の2秒間：セルフタイマーランプ早い点滅
- ➔ セルフタイマー作動中は、表示パネルに撮影されるまでの秒数が減算で表示されます。

❗ レンズの前に立ってシャッターボタンを押すと、狙った被写体にピントが合わなくなります。

- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、<☺/>ボタンを押します。
- 自分一人だけをセルフタイマーで撮るときは、自分が入る位置とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロック(29)してから撮影します。

ワイヤレスリモコン撮影

リモートコントローラー RC-5を使用すると、カメラの正面から約5m離れて撮影できます。



リモコン受信部

1 <📷/🔍>ボタンを押す

- 表示パネルを見ながら、<📷/🔍>ボタンを押して<🔍>を選びます。

2 撮影する

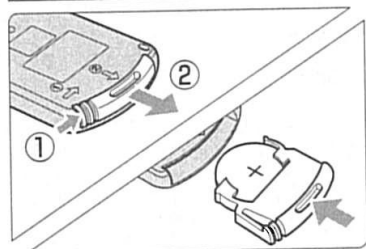
- 送信部をカメラのリモコン受信部に向けて送信ボタンを押します。
- ➡ 約2秒後に撮影されます。
- 作動表示はセルフタイマーの最後の2秒と同じです。

❗ 蛍光灯が近くにあると、蛍光灯の種類によってカメラが誤作動することがあります。できるだけカメラを蛍光灯から離してください。

🔋 <🔍>に設定してから約4分間放置すると、省電力のためリモコンの設定は自動的に解除されます。

RC-5の電池交換

送信ボタンを押しても撮影できなくなったら、新しい電池に交換してください。電池はCR2032リチウム電池を1個使用します。



1 電池ホルダーを外す

- ①ホルダーの左側の爪を内側へ押しながら、②引き出して外します。

2 電池を入れ換えてホルダーを入れる

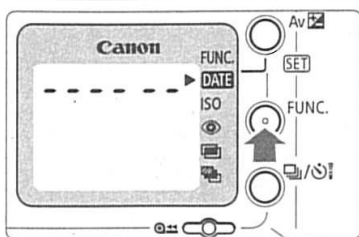
- 「+」「-」を正しくあわせて入れます。

DATE 日付／時刻を入れて撮る



写し込み位置

このカメラには2099年までのオートカレンダーが組み込まれたデート機能がついています。撮影と同時に日付や時刻を、左に示す写真の位置に写し込むことができます。日付／時刻は、簡単撮影ゾーンでも応用撮影ゾーンでも写し込むことができます。

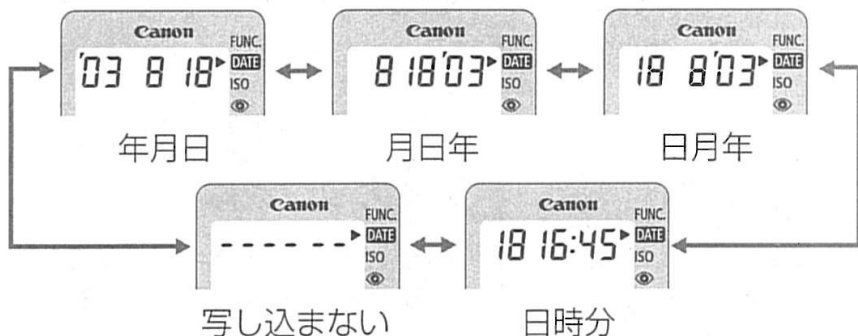


1 <▶>マークを<DATE>に合わせる

- 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押して設定します。(⦿6)
- 日付／時刻の設定が行われていないときは、「-----」が点滅します。26ページを参照して日付／時刻を設定してください。

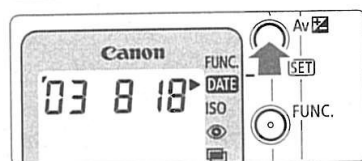
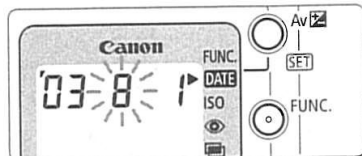
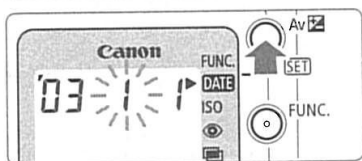
2 表示順序を選ぶ

- <⚙️>を回します。
- ➡ 表示が次のように変わります。



DATE 日付／時刻を入れて撮る

設定する



1 <▶>マークを<DATE>に合わせる

2 修正する数字を点滅させる

- <SET>ボタンを押します。
- 設定位置は年→月→日→時→分→「:」の順に変わります。

3 正しい数字を設定する

- <◻>を回します。
- 手順2、3を繰り返してすべての日付／時刻を設定します。

4 設定を終了する

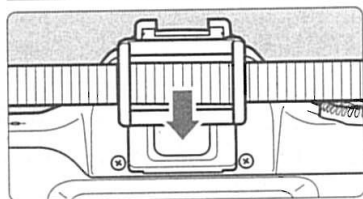
- 点滅している数字がなくなるまで<SET>ボタンを押します。
- 「:」点滅で<SET>ボタンを押したときがゼロ秒になります。

❗ 日付／時刻が点滅した状態で撮影すると、写真に写し込まれません。

📄 設定した日付／時刻は、カメラの電池を抜いても約10分間記憶されています。

アイピースカバーを使う

セルフタイマーやリモコンを使うときなど、ファインダーから目を離して撮影すると、ファインダーから入った光によって露出が変わることがあります。そのときは、アイピースカバー(7)を使います。









1 アイカップを取り外す

2 アイピースカバーを取り付ける

- ファインダー接眼部の溝に沿って取り付けます。

❗ アイカップを取り付け直すときは、接眼部に取り付けたあと、横から指でつまむように押して、カメラにしっかり取り付けてください。

撮影目的にあわせた応用撮影

 AFフレームの選択	28
フォーカスロック撮影	29
AFの苦手な被写体(手動ピント合わせ)	30
 巻き上げモードの選択	31
測光方式について	31
P プログラムAE撮影	32
Tv シャッター速度を決めて撮る	34
Av 絞り数値を決めて撮る	35
M 自分で露出を決めて撮る	36
A-DEP 近くから遠くまでピントが合った写真を撮る ..	37
Av  自分の好みに露出を補正する	38
 露出を自動的に変えて撮る/AEB撮影	39
 露出を固定して撮る/AEロック撮影	40
長時間露光(バルブ)撮影	41
 多重露出撮影	41
ISO フィルム感度の手動設定	42
内蔵ストロボを使用した撮影	43



応用撮影ゾーンでは、シャッター速度や絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

- AFフレーム選択、巻き上げモード選択、露出補正、AEB、AEロック、バルブ撮影、多重露出、フィルム感度の手動設定は、応用撮影ゾーンでのみ行うことができます。

AFフレームの選択

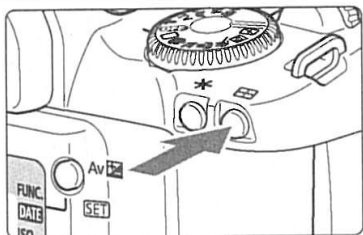
AFフレームとはピントを合わせる枠のことをいいます。AFフレームの選択方式には、自動選択と任意選択があります。簡単撮影ゾーン、および〈A-DEP〉では自動選択になります。〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉の各撮影モードでは、自動選択と任意選択を切り換えることができます。

●自動選択

撮影状況に応じてカメラが自動的にAFフレームを選択してピントを合わせます。

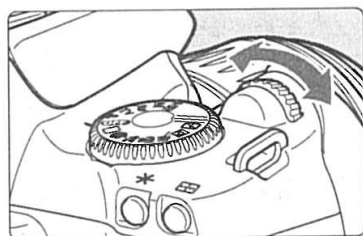
●任意選択

7つのAFフレームから、任意の1点を手動で選択します。狙った被写体に確実にピントを合わせたいときや、より構図優先の迅速なAF撮影を行いたいときに便利な機能です。



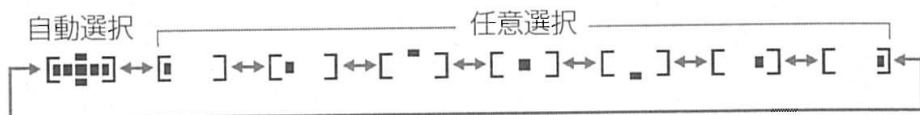
1 〈AF-ON〉ボタンを押す(⦿6)

→ 現在選択されているAFフレームが、表示パネルとファインダー内に表示されます。



2 AFフレームを選択する

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら、〈AF-ON〉を回して選びます。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。



フォーカスロック撮影

AFでピントを合わせたあと、ピントを固定したまま構図を変えて撮影する方法をフォーカスロック撮影といいます。

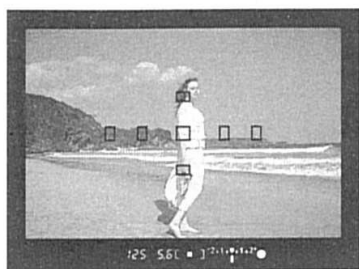
1 モードダイヤルを応用撮影ゾーンにする

- 〈A-DEP〉以外の撮影モードを選びます。

2 任意のAFフレームを選択する

3 ピントを合わせる


- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。



4 シャッターボタンを半押ししたまま構図を変える

5 撮影する



- ピントが合わないと、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えてもう一度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体(手動ピント合わせ)』(30)を参照してください。
- EOS専用外部ストロボ使用時にAF補助光でピントが合わないときは、中央のAFフレームを選択してください。
- 簡単撮影ゾーンでもフォーカスロック撮影ができます(〈〉を除く)。そのときは手順3から行います。

AFの苦手な被写体(手動ピント合わせ)

次のような特殊な被写体に対しては、ピント合わせができない(合焦マーク<●>が点滅する)ことがあります。

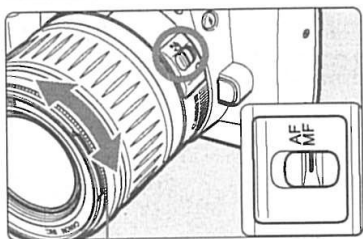
ピントが合いにくい被写体

- コントラスト(明暗差)が極端に低い被写体
例：青空、単色の平面
- 非常に暗い場所にある被写体
- 極端な逆光状態で、かつ光の反射が強い被写体
例：反射光の強い車のボディ
- 被写体が遠いところと近いところに共存する状態
例：おりの中の動物

これらの場合は、次のいずれかの方法でピントを合わせます。

- (1) 被写体とほぼ同じ距離にあるものでフォーカスロックし、構図を決めなおして撮影する。
- (2) レンズのフォーカスモードスイッチを<MF>にして手動でピントを合わせる。

MF手動でピントを合わせる(マニュアルフォーカス)




フォーカスリング

1 レンズのフォーカスモードスイッチを<MF>にする

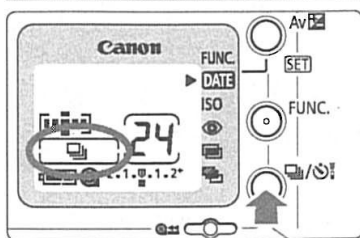
2 ピントを合わせる

- ファインダー内の被写体をはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。

 シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、ピントが合った位置のAFフレームマークと、合焦マーク<●>が点灯します。

☐ 巻き上げモードの選択

フィルム巻き上げには1枚撮影と連続撮影(最高約1.5コマ/秒)があります。



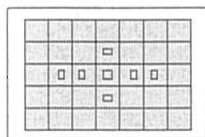
〈☐/1/2〉ボタンを押す

● 表示パネルを見ながら〈☐/1/2〉ボタンを押します。



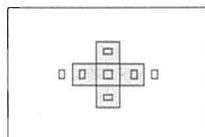
測光方式について

測光方式には、評価測光、部分測光、中央部重点平均測光の3つの方式があります。



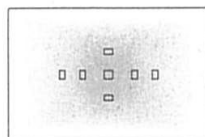
評価測光

このカメラの標準測光方式で、逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。ファインダー内に占める被写体の位置、明るさ、背景、順光、逆光など複雑な光の要素をカメラが判断し、主被写体を常に適正な露出にします。



部分測光

応用撮影ゾーンのアEロック撮影時に自動設定されます。逆光などで被写体の周辺に強い光がある場合の撮影に有効です。ファインダー中央部の約9.5%の範囲を測光します。測光範囲はほぼ左図の範囲となります。



中央部重点平均測光

〈M〉モード時に、自動設定されます。ファインダー中央部に重点を置いて画面全体を平均的に測光します。

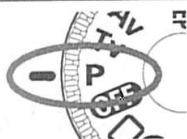
P プログラムAE撮影



〈□〉(全自動)と同じように気軽に撮影できます。被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度と絞り数値を自動設定します。これをプログラムAEといいます。

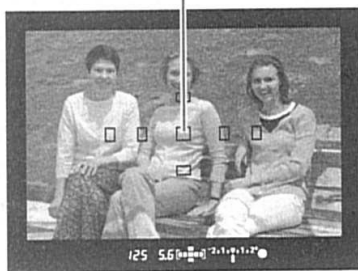
*〈P〉は、Program(プログラム)の略です。

*AEは、Auto Exposure(オートエクスポージャー)の略で自動露出のことです。



1 モードダイヤルを〈P〉にする

AFフレーム



2 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

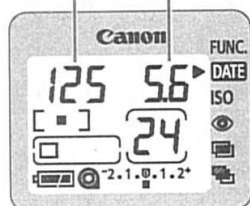
シャッター速度
絞り数値

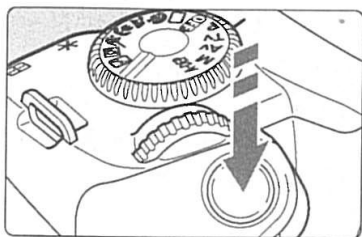
AFフレームマーク



3 表示を確認する

- ➔ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。
- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、適正露出です。





4 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。




- 「30"」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ストロボを使用してください。
- 「2000」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。減光用のNDフィルターを使用してください。



〈P〉と〈O〉(全自動)の違い

- 自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせはともに同じです。
- 〈P〉では次の機能の選択・設定または使用が可能です。〈O〉ではできません。
 - AFフレームの任意選択
 - 巻き上げモードの選択
 - プログラムシフト
 - 露出補正
 - AEB
 - 〈*〉ボタンによるAEロック
 - 多重露出
 - 内蔵ストロボの手動発光／発光禁止
 - FEロック、ハイスピードシンクロ (EXストロボ使用時)

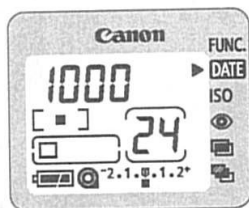
プログラムシフトについて

- プログラムAEは、自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ(プログラム)を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。
- プログラムシフトはシャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度、または絞り数値が表示されるまで〈〉を回します。
- プログラムシフトは撮影すると自動的に解除されます。
- ストロボを使用するとプログラムシフトはできません。

Tv シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができ、シャッター速度を遅くすると流動感を表現できます。

* <Tv>は、Time value(タイムバリュー)の略で時間量のことです。



1 モードダイヤルを<Tv>にする

2 シャッター速度を設定する

- <歯車>を回して設定します。
- 1/2段ステップで設定できます。

3 ピントを合わせる

- 絞り数値が自動的に決まります。

4 表示を確認して撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ適正露出です。



- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー(露出不足)です。絞り数値の点滅が止まるまで<歯車>を回してシャッター速度を遅くします。



- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー(露出過度)です。絞り数値の点滅が止まるまで<歯車>を回してシャッター速度を速くします。



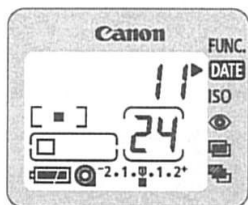
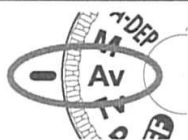
シャッター速度の表示

「2000」から「2」までは分数の分母を表しています。例えば、「125」は1/125秒を表しています。また、「0.7」は0.7秒を、「15」は15秒を表しています。

Av 絞り数値を決めて撮る

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。絞り数値を小さくする(絞りを開く)と、背景をぼかした美しいポートレートが撮影できます。絞り数値を小さくするほど背景はぼけます。絞り数値を大きくする(絞りを閉じる)と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど鮮明に写る奥行きが深くなります。

* <Av>は、Aperture value(アパチャーバリュー)の略で開口量のことです。



30 1/1 [] 2.4 1.2*

1 モードダイヤルを<Av>にする

2 絞り数値を設定する

- <絞りアイコン>を回して設定します。
- 1/2段ステップで設定できます。

3 ピントを合わせる

- ➔ シャッター速度が自動的に決まります。

4 表示を確認して撮影する

- シャッター速度が点滅していなければ適正露出です。



- シャッター速度の「30」が点滅するときは、露出アンダー(露出不足)です。点滅が止まるまで<絞りアイコン>を回して絞り数値を小さくします。



- シャッター速度の「2000」が点滅するときは、露出オーバー(露出過度)です。点滅が止まるまで<絞りアイコン>を回して絞り数値を大きくします。



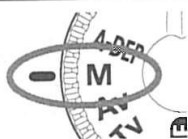
絞り数値の表示

数字が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される数値は使用するレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは「00」を表示します。

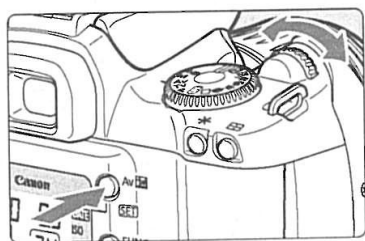
M 自分で露出を決めて撮る

カメラまかせではなく、自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影をするときに設定します。露出はファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、単独露出計を利用して自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。なお、〈M〉撮影時は自動的に中央部重点平均測光になります。




*〈M〉は、Manual(マニュアル)の略です。

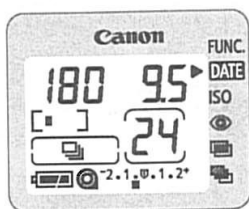


1 モードダイヤルを〈M〉にする




2 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッター速度を設定するときには〈〉を回します。
- 絞り数値を設定するときには〈Av 〉を押しながら〈〉を回します。





3 ピントを合わせる

- ➔ 露出値が表示されます。
- 露出レベルマーク〈〉で、標準露出からどのくらいずれているか確認できます。

4 露出を決める

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。

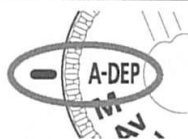
5 撮影する

 露出レベルマーク〈〉が〈2+〉または〈-2〉の位置で点滅しているときは、露出が±2段を超えていることを示しています。

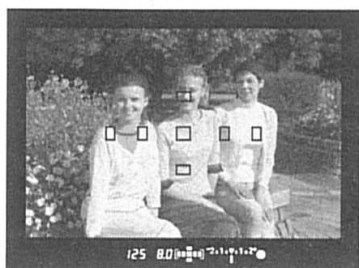
A-DEP 近くから遠くまでピントの合った写真を撮る

たくさんの人で記念写真を撮ったり風景写真を撮るとき、自動的に近くから遠くまでピントを合わせて鮮明な写真を撮ることができます。7つのAFフレームでとらえた被写体のうち、近いところから遠いところまで鮮明に写ります。

* <A-DEP>は、Auto-Depth of field(オートデプスオブフィールド)の略で自動被写界深度のことです。



1 モードダイヤルを<A-DEP>にする



2 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- 点灯したAFフレームマークのすべての位置にピントが合います。

3 撮影する

❗ レンズのフォーカスモードスイッチが<MF>になっていると、<A-DEP>撮影できません。

- 絞り数値が点滅するときは、露出は合っていますが、希望したピントの深さが得られません。レンズを広角にするか、被写体から離れてやりなおしてください。
- シャッター速度や絞り数値を任意に変更することはできません。遅いシャッター速度が設定されることがありますので、三脚の使用をおすすめします。
- ストロボを使用したときは、<P>のストロボ撮影と同じ結果になります。

Av 自分の好みに露出を補正する




カメラが決めた標準的な露出を意図的に変えることを露出補正といいます。露出を明るめ(プラス補正)にしたり、暗め(マイナス補正)にしたりして撮影できます。設定できる補正量は、1/2段ステップで±2段の範囲です。

1 モードダイヤルを<M>以外の応用撮影ゾーンにする

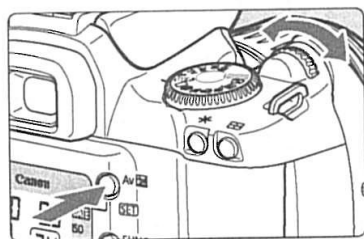
2 露出表示を確認する

- シャッターボタンを半押しして、表示を確認します。

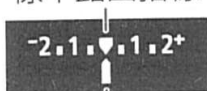
3 補正量を設定する

- <Av >ボタンを押しながら<>を回して設定します。
- 露出補正を解除するときには、補正量を<>の位置に戻します。

4 撮影する



標準露出指標



マイナス補正 ← 0 → プラス補正

露出レベルマーク



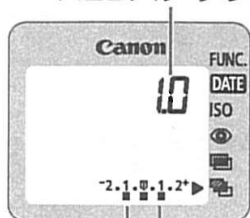
- 設定した補正量は、モードダイヤルを<OFF>にしても記憶されています。
- モードダイヤルを単体撮影ゾーンにすると、露出補正は自動的に解除されます。
- シャッター速度1/125秒、絞り数値5.6が適正露出のとき、露出レベルで1段の補正をするということは、シャッター速度、絞り数値のいずれかを以下のように変更することと同じです。

	-1段 ←	0	→	+1段
シャッター速度なら	250 ←	125	→	60
絞り数値なら	8.0 ←	5.6	→	4.0

露出を自動的に変えて撮る/AEB撮影

1/2段ステップ±2段の範囲で、自動的に露出を変えながら3コマの写真を撮影できます。これをAEB(Auto Exposure Bracketing : オートエクスポージャーブラケティング)撮影といいます。

AEBステップ量



AEBレベル

標準露出



マイナス補正



プラス補正



1 <▶>マークを<☰>に合わせる

- 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押します。(06)

2 AEBステップ量を設定する

- <☰>を回して設定します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

3 撮影する

- ➔ 標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- ➔ 左図のように、撮影順に補正位置が表示されます。
- 設定されている巻き上げモードに従って撮影されます。
- 3コマ撮影後でも、AEB撮影は自動解除されません。解除するときはステップ量を「00」に戻します。



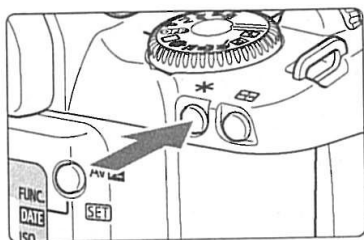
- AEB撮影中は<☰>横の<▶>マークとAEBレベル<■>、ファインダー内の<✳>が点滅します。
- 巻き上げモードが<☰>のときは、3コマ撮影後に自動停止します。<☰>(1枚撮影)の場合は、シャッターボタンを3回押して撮影してください。
- セルフタイマー/リモコンを使用したときは、自動的に3コマ連続撮影されます。
- AEBと露出補正を組み合わせで撮影できます。
- モードダイヤルを簡単撮影ゾーンにすると、AEBは自動的に解除されます。
- ストロボ撮影、およびバルブ撮影との併用はできません。

★露出を固定して撮る/AEロック撮影 ■

選択したAFフレームで露出とピントを別々に決めることができます。最初に露出を決めたあとで構図を変える必要がある撮影に利用します。これをAEロック撮影といいます。逆光下での撮影などに有効です。なお、AEロック撮影時は自動的に部分測光になります。

1 ピントを合わせる

→ 露出値が表示されます。

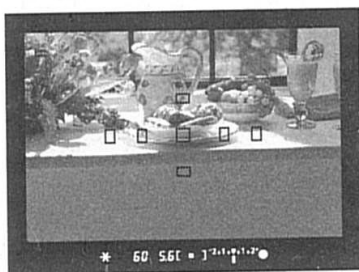


2 <★>ボタンを押す(あ4)

● 露出を合わせたい被写体をファインダーの中央において、<★>ボタンを押します。

→ ファインダー内に<★>が表示され、露出が固定(AEロック)されます。

● <★>ボタンを押し直すたびに、そのときの露出値をAEロックします。



AEロック表示

3 構図を決めて撮影する

● 連続してAEロック撮影をするときは、<★>ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。



長時間露光(バルブ)撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

1 モードダイヤルを<M>にする

2 シャッター速度を「bulb」にする

- 表示パネルを見ながら、<>を回して「bulb」を選びます。
- 「30''」の次が「bulb」です。

3 絞り数値を設定する

- <Av>ボタンを押しながら、<>を回して設定します。

4 撮影する

- ➔ 撮影中は表示パネルに「bulb」が点滅します。
- 露光はシャッターボタンを押している間だけ行われます。



- リモートコントローラーRC-5 (24)でもバルブ撮影ができます。送信ボタンを押すと2秒後に露光が行われ、もう一度押すと撮影が終了します。
- 新品電池使用時、約4時間(常温)のバルブ撮影ができます。


多重露出撮影

撮影後フィルムを巻き上げず、同じコマに複数回露光することを多重露出撮影といいます。1度の操作で9回までの多重露出回数を設定できます。

1 <▶>マークを<>に合わせる

- 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押します。(⦿6)
- ➔ 「!」が表示されます。

2 多重露出回数を設定する

- <>を回して設定します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

多重露出撮影

3 撮影する

→ 設定した回数の撮影が終了すると、フィルムは自動的に次のコマに巻き上げられ、多重露出撮影は自動的に解除されます。

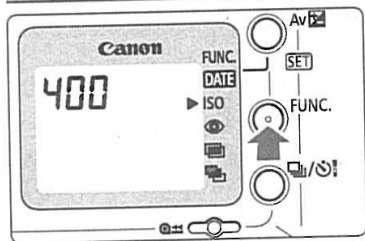
❗ 多重露出撮影をフィルムの最初と最後の数コマで行うと、フィルムの巻きぐせにより写真の重なり具合が微妙にずれることがあります。



- 多重露出撮影中は横のマークが点滅します。
- 撮影前に解除するときは、多重露出回数を「1」にします。
- 撮影の途中で解除するときは、手順1、2の操作で多重露出回数の表示を空白にします。

ISO フィルム感度の手動設定

フィルムに記載されている感度とは異なる感度を設定するときや、DXコードが付いていないフィルムを使用するとき、フィルムを入れてから次のようにします。設定できるフィルム感度の範囲は、ISO 6~6400です。



1 マークをに合わせる

- 表示パネルを見ながらボタンを押します。(06)
- 現在設定されているフィルム感度が表示されます。




2 フィルム感度を設定する

- を回して設定します。

📄 フィルム感度を手動設定しても、DXコードが付いているフィルムに入れ換えると、設定した感度は自動的に解除されます。


内蔵ストロボを使用した撮影

簡単撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

暗いときや日中逆光時に、内蔵ストロボが自動的に上がって発光します。(〈〉〈〉〈〉を除く)

応用撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

〈〉ボタンを押して、内蔵ストロボを上げて撮影します。

P : カメラまかせのストロボ撮影を行いたいときに選択します。シャッター速度(1/90秒)と絞り数値は、〈〉(全自動)と同様に自動的に決まります。

Tv : 任意のシャッター速度(30秒~1/90秒)を設定したいときに選択します。設定したシャッター速度に対し、カメラの測光で適正露出となる絞り数値が自動設定されます。

Av : 任意の絞り数値を設定したいときに選択します。設定した絞り数値に対し、カメラの測光で最適なシャッター速度が自動設定(30秒~1/90秒)されます。夜景などを背景にした暗い場所では、主被写体も背景も適正露出となる、スローシンクロ撮影になります。主被写体はストロボ光で、背景はスローシャッターによる長秒時露光で適正露出になります。

● 自動スローシンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなりますので、三脚を使用して撮影することをおすすめします。

M : シャッター速度(バルブ~1/90秒)と絞り数値を任意に設定したいときに選択します。主被写体はストロボ光で適正露出となります。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。

A-DEP : 〈**P**〉と同じストロボ撮影結果になります。

内蔵ストロボの届く距離(EF28-90mm F4-5.6使用時) [m]

ISO	28mm		90mm	
	ネガ	リバーサル	ネガ	リバーサル
100	1~4.2	1~3.0	1~3.0	1~2.1
400	1~8.5	1.2~6.0	1~6.0	1~4.2

内蔵ストロボを使用した撮影

- 被写体との距離が1m以内で内蔵ストロボ撮影すると、画面の一部がケラレ(欠け)て暗い写真になります。1m以上離れて撮影してください。
 - レンズフードを付けたまま内蔵ストロボを使用すると、フードでストロボの光がケラれます。必ずフードを外してから撮影してください。
 - 超望遠レンズ、大口径レンズを使用すると、内蔵ストロボの光がケラれることがあります。
 - 内蔵ストロボ照射角の広角側限界は、焦点距離28mmまでです。
 - 他社の特定のカメラ専用とされている(複数の接点を持つ)ストロボや、高圧タイプのストロボなどを使用すると、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となることがあります。
- 内蔵ストロボを収納するときは、指で押し下げます。
- より大光量が必要な場合は、EOS専用外部ストロボ(別売)をおすすめします。

資料

撮影機能の組み合わせ一覧

● : 自動設定 ○ : 選択・設定可能

モードダイヤル		□	📷	🏔️	🌸	🏠	📷	📷	P	Tv	Av	M	A-DEP
AF	ワンショット		●	●	●		●						●
	AIサーボ					●							
	AIフォーカス	●					●	●	●	●	●		
	AF フレーム 選択	自動	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	●
任意								○	○	○	○		
フィルム 巻き 上げ	1枚撮影	●		●	●		●	●	○	○	○	○	○
	連続撮影		●			●			○	○	○	○	○
	セルフ/リモコン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

AFモードとフィルム巻き上げの関係

AFモード	1枚撮影	連続撮影
ワンショットAF	ピント合わせが終わるまでは撮影できません。ピントが合うと同時にピントを固定します。評価測光のときは、露出を固定します。(撮影前に露出を記憶)	左と同じ条件で連続撮影になります。(最高約1.5コマ/秒)
AIサーボAF	被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。露出は撮影する瞬間に決まります。	左と同じ条件で連続撮影になります。ピント合わせは連続撮影中も作動します。(最高約1.3コマ/秒)
AIフォーカスAF	被写体の状態によってワンショットAFからAIサーボAFに自動的に切り換わります。	

「故障かな？」とお考えになる前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。

「表示パネルに表示が出ない」

- 電池が消耗している。
 - ⇒ 新しい電池に交換する。(11)
- 電池が逆向きに入っている。
 - ⇒ 電池を正しい向きに入れなおす。(11)

「写真がボケて写っている」

- レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉になっている。
 - ⇒ 〈AF〉にする。(13)
- シャッターボタンを押すときに手ブレを起こしている。
 - ⇒ シャッターボタンを静かに押す。(14)

「シャッターが切れない」

- 表示パネルにフィルム枚数が表示されず、〈◎〉が点滅している。
 - ⇒ フィルムを正しく入れなおす。(15)
- ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅してピントが合わない。
 - ⇒ AFフレームの位置を変えてみる。(28)
 - それでもピントが合わないときは、手動でピントを合わせる。(30)

「表示パネルにく<□>が点滅している」

- 電池容量が極端に少なくなっている。
 - 新しい電池に交換する。(11)
 - 何らかの理由でカメラが誤作動している。
 - シャッターボタンを半押ししてみる。(14)
 - 一度電池を取り出してから、再度入れなおしてみる。(11)
- <□>の点滅が消えない場合は、最寄りのお客様相談窓口にご相談ください。

主な仕様

■型式

型式	ストロボ内蔵、35mm一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体	35mmフィルム
画面サイズ	24×36mm
使用レンズ	キヤノンEFレンズ群
レンズマウント	キヤノンEFマウント

■ファインダー

方式	ペンタダハミラー使用、アイレベル式
視野率	上下/左右とも約90%
倍率	0.7倍(50mmレンズ・∞・-1dpt)
アイポイント	18.5mm
フォーカシングスクリーン	固定式、全面マットスクリーン
ミラー	クイックリターン式全面ハーフミラー(反射:透過=60:40、ミラー切れ:EF300mm F2.8L+エクステンダー2×までなし)
ファインダー情報	AF情報(AFフレーム/マーク、合焦マーク)、露出情報(シャッター速度、絞り数値、露出レベル、AEロック)、ストロボ情報(充電完了、ハイスピードシンクロ、FEロック、赤目緩和)

■オートフォーカス

方式	CMOSセンサーによるTTL-CT-SIR方式
測距点	7点
測距輝度範囲	EV1~18(ISO100)
フォーカスモード	ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、手動(MF)
AFフレーム選択	自動選択、任意選択
AFフレーム選択表示	ファインダー内と表示パネルのAFフレームマークによる
AF補助光	ストロボ間欠発光方式 有効距離:中央部 約4m/周辺部 約3.5m

■露出制御

測光方式	35分割TTL開放測光 ・評価測光(すべてのAFフレームに連動) ・部分測光(中央部・ファインダー画面の約9.5%) ・中央部重点平均測光(マニュアル露出時自動設定)
測光範囲	EV1~20(常温・50mm F1.4・ISO100)

露出制御方式	プログラムAE(全自動、ポートレート、風景、クローズアップ、スポーツ、夜景ポートレート、ストロボ発光禁止、プログラム)、シャッター優先AE、絞り優先AE、自動深度優先AE、マニュアル露出、E-TTL/A-TTL/TTLストロボAE
フィルム感度	ISO6~6400(DXコード対応 ISO25~5000)
露出補正	手動：1/2段ステップ±2段(AEB併用可能) AEB：1/2段ステップ±2段
AEロック	自動：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック 手動：AEロックボタン押しによる(部分測光)
多重露出	最大予約回数：9回

■シャッター

形式	電子制御式・フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度	1/2000~30秒(1/2段ステップ)、バルブ、X=1/90秒
レリーズ方式	ソフトタッチ電磁レリーズ
セルフタイマー	10秒後撮影
リモコン	リモートコントローラーRC-5/RC-1対応

■ストロボ

内蔵ストロボ	AFフレーム連動・3分割TTL自動調光 GNo.12(ISO100・m) 充電時間：約2秒 照射角：焦点距離28mmの画角に対応 赤目緩和機能：ランプ式
EOS専用外部ストロボ	E-TTL/A-TTL/TTL自動調光

■フィルム給送関係

フィルム装填	自動(プリwind式)
巻き上げモード	1枚撮影、連続撮影
連続撮影速度	ワンショットAF時：最高約1.5コマ/秒 AIサーボAF時：最高約1.3コマ/秒
巻き戻し	自動(途中巻き戻し可能)

■日付/時刻写し込み

オートデート	2099年まで対応
--------	-----------

■電源.....CR2リチウム電池、2本使用

■大きさ.....130(幅)×88(高さ)×64(奥行)mm

■質量.....340g(本体のみ)

■リモートコントローラーRC-5

送信.....送信ボタンによる、2秒後撮影

作動距離.....約5m以内

電源.....CR2032リチウム電池、1個使用

電池寿命.....約6000回

大きさ.....64(幅)×34(高さ)×6(奥行)mm

質量.....8g(本体のみ)

- ・記載データはすべて当社試験基準によります。
- ・製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。



キヤノン株式会社 canon.jp

キヤノン販売株式会社 〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

お客様相談窓口

製品の取り扱い方法、修理サービスのご相談は、機種名をご確認のうえ、お買い上げの販売店または、別紙のサービス窓口にご相談ください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために不可欠な部品)は、日本国内において、製造打ち切り後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、別紙のサービス窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本のフィルムやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンカメラのホームページを開設しています。カメラに関する情報を掲載しているコンテンツ等もございますので、インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

キヤノン株式会社/キヤノン販売株式会社
canon.jp/camera

この使用説明書は、2003年6月に作成したものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、別紙のサービス窓口にお問い合わせください。